

保護者負担軽減計画について

< 京都府提出資料 >

学校名	立命館高等学校
所在地	京都府長岡京市調子一丁目 1－1
電話番号	075-323-7111

(1)	本校は、1905年(明治38年)9月「私立清和普通学校」として中川小十郎（創立者）により創設されました。1900(明治33)年に「私立京都法政学校」（後の立命館大学）を創設。その5年後に「形式的な束縛を受けず、のびのびとした生徒を育てる中等教育を」という考えにも続き附属校を開設しました。内閣総理大臣を務めた西園寺公望は「進取の気質に富む青年の育成」のために私塾「立命館」を開き、その後、西園寺公望の秘書官であった中川小十郎はこの「立命館」の名称とその精神である『自由と清新』の学風を受け継ぎ、今日の「立命館」の礎としました。 第二次世界大戦後に末川博を総長として迎え、「自由と精神」の学風のうえに新たに「平和と民主主義」を教学理念として、学園の民主的な体制と特色ある教育とを築きあげてきました。 本校は、時代の先に求められるものを常に鋭敏に感じ取り、新たな挑戦をし続ける「自由」で「清新」な学校であり続けたいとそう強く考えています。																																					
建学の精神																																						
(2)	本校は昨年度に創立120年を迎えました。立命館小学校との初等教育から高等教育までの一貫教育体制を形成するため、学園の中核を担う学校として、学園内で大きな役割が期待されている。また、2018年度まで文部科学省のSGH（スーパーグローバルハイスクール）に認定され（現在はネットワーク参加校）、また2023年度より5期目の指定を受けたSSH（スーパーサイエンスハイスクール）と合わせて二つの認定校となった。自然科学の分野だけでなくすべての分野で、グローバルな視点に立って自ら主体的に考え、世界の若者と堂々と意見を交流し合える表現力やコミュニケーション力を育てている。 また、小学校から大学までの21世紀型の一貫教育モデルの創造を目指しており、中学校でのクリエイティブラーニングコース（CL）やアドバンストラainingコース（AL）、高等学校での、他大学進学を目指すMSコースや、CEコース（文系）、SSコース（理系）、GLコース（国際）など多様なコースを用意している。一貫教育の強みを生かし、将来を見据えて一人ひとりの可能性を伸ばす独自の教育を実践し、高い学力と豊かな人間性を備え、将来の社会に貢献できる自立した人間を育てることを目指している。																																					
本校の特色及び 将来展望																																						
(3)	<table><tr><td rowspan="2">【1年生】</td><td>入学金</td><td>施設拡充費 （入学時）</td><td>授業料</td><td>施設拡充費等 ＊（経常的）</td><td>計 （入学時除く）</td><td>考査料</td></tr><tr><td>120,000</td><td></td><td>702,000</td><td>284,000</td><td>986,000</td><td>20,000</td></tr><tr><td rowspan="2">【2年生】</td><td colspan="2"></td><td>授業料</td><td>施設拡充費等 ＊（経常的）</td><td>計</td><td rowspan="4"></td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>672,000</td><td>264,000</td><td>936,000</td></tr><tr><td rowspan="2">【3年生】</td><td colspan="2"></td><td>授業料</td><td>施設拡充費等 ＊（経常的）</td><td>計</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>672,000</td><td>264,000</td><td>936,000</td></tr></table> ＊施設拡充費等には、施設拡充費、校費、実験実習費、冷暖房費等の入学金、授業料及び検定料以外の納付金で、学則に定めのあるものすべてを含む。ただし、PTA、生徒会等、学校法人とは別団体に属する経費、任意寄附金及び給食費は除外。	【1年生】	入学金	施設拡充費 （入学時）	授業料	施設拡充費等 ＊（経常的）	計 （入学時除く）	考査料	120,000		702,000	284,000	986,000	20,000	【2年生】			授業料	施設拡充費等 ＊（経常的）	計				672,000	264,000	936,000	【3年生】			授業料	施設拡充費等 ＊（経常的）	計				672,000	264,000	936,000
【1年生】	入学金		施設拡充費 （入学時）	授業料	施設拡充費等 ＊（経常的）	計 （入学時除く）	考査料																															
	120,000		702,000	284,000	986,000	20,000																																
【2年生】			授業料	施設拡充費等 ＊（経常的）	計																																	
			672,000	264,000	936,000																																	
【3年生】			授業料	施設拡充費等 ＊（経常的）	計																																	
			672,000	264,000	936,000																																	
・ 令和8年度納付金																																						
※学科やコースによって 納付金に差異がある場合 は最低額を計上。																																						
・ 今回改定	あり																																					
・ 前回改定	なし																																					
年度																																						
・ 今後の納付金に 対する考え方	今後の学費改定を最小限に抑えるべく、今後これまで以上に補助金獲得に努め、また大幅に増加するランニングコストに関しては仔細にわたって内容を検証して削減を図り、従来の支出を根本から見直しつつ最大限の教育効果を得られるよう取り組むことで、試算を改めて行うこととしている。ランニングコストについては、特に物価高・燃料費高騰に対応するべく、施設改修・備品更新などにより、より省エネ・効率化を重視した学校運営により極力押さえる努力を続けて行きたい。																																					
(4)	長岡京キャンパス（2014年に移転）においては、教室棟の中心にメディアセンターを設けるなど、主体的な学習活動、国際交流や研究活動を重視した新カリキュラムを推進している。大ホール、小ホール、アトリウムなどを活用し、文化祭や課外活動、発表活動の充実を図っている。3つのグラウンド、アリーナ、プールなどの体育施設も充実しており、教科教室や、多様なオープンスペースも活用して、自主性や豊かな人間性を育てている。また、ICT基盤整備事業補助金等を最大限活用し、電子黒板・教材提示設備などICTを活用した教育展開のための基盤整備、および、自然環境に配慮したエコキャンパスを実現しています。また本校は昨年度創立120周年を迎え、本校のステークホルダーを中心に周年事業寄付を募り、その資金を活用して、2024年度には第1グラウンド（人工芝・全天候トラック）の全面リニューアル、2025年度には「次世代多目的ラボ（MiLABO）」の設置などを進めてきました。より充実した学校施設になるよう準備、整備・改修を進めています。																																					
教育内容、施設整備の 改善・拡充等の状況																																						
(5)	国の就学支援制度をはじめとした国都道府県による保護者負担軽減に関する施策について適正に事務処理を行ないつつ、従前の学校独自の奨学・修学支援制度も実施する。 本校独自の支援制度としては、学生生活の模範となって意欲的に取り組む生徒で経済援助が必要な生徒に対して、授業料の半額相当を上限として給付する「立命館中学校・高等学校奨学金制度」、入学後の家計事情の急変により経済上の理由で就学困難な場合に、当該年度の授業料の半額を上限として学費減免を行なう「立命館中学校・高等学校授業料減免制度」があげられる。さらには本校の教育諸事業をサポート頂いている教育後援会においても、給付奨学金支援事業を行なっている。																																					
令和8年度の保護者 負担軽減策及び考え方																																						
(6)	引続き経常経費の削減に努め、財務体質の強化、経営環境の強化を図っていく。 次年度以降の学費改定を最小限に抑えるべく、大幅に増加するランニングコストに関しての削減計画、根本的な予算編成の見直しに着手する。また、本学ブランドの積極的広報と的確なメッセージの発信、同窓会等社会的ネットワークの強化、多様な収入の拡大にも尽力していく。 次年度以降の納付金については、取組みの効果を勘案の上提案する。																																					
今後5年程度の保護者 負担軽減計画																																						